

青木かずのり県政報告

Vol.
10



 常任委員会質問

 地域活動

平成29年9月定例議会が開会
9月27日県土整備警察常任委員会で質問しました！



問1

子育てし大県“さが”『すまいる』支援事業
について

問2

市町の無電柱化の推進について

問1 子育てし大県“さが”『すまいる』支援事業について

佐賀県総合計画2015では、主要な取組みのひとつとして子育てし大県さがプロジェクトが位置づけられました。県では子育てタクシーに関する事業も始まり、子育て支援への取組みが充実し子育てし大県さがをより充実させることと期待しています。

子育てし大県さがプロジェクトの一環として、子育て世帯への住まいの支援策である「子育てし大県“さが”『すまいる』支援事業」が今年度実施され、第1回の募集は好評でした。

広報媒体として、パンフレットや県のホームページにも詳しく掲載され、本事業が子育て支援に寄与する事業であり力を入れていることが理解できます。

事業利用者の募集の結果では、1回目より2回目の方が件数自体は減少していましたが、同居される方の件数が増加し、2回目では同居と近居の件数が同数でした。同居というのは、様々な家庭事情で難しいところもありますが、少子高齢化と共働きが多い現代においては同居がもたらす様々な利点と効果もあるのではないかと思います。

ただ本事業のサポートを受けるための諸条件が設けられ、例えば18歳未満の子供が居る世帯、また応募期間の限定など、応募条件の適用外となりサポートを受けられなかったとの声もありました。子育て支援を支える事業であるため、より幅広くサポートできるよう、サポート可能な条件の範囲の拡大など、今後にも課題があると提案しました。

将来に向けて、子供を産み育て、3世代もしくは4世代で住もうと考えていらっしゃる世帯の方々も対象となるような取組みも必要ではないかと思います。新築等になる場合は、人生で何度も経験することでは無い大変貴重な3世代同居スタートの門出となることから、様々な家庭環境に寄り添ったサポートが大切です。将来を見据えた上で、子育てしたい気持ちを促すことに繋がる事業であることも重要だと思えます。

子育てし大県さがとして、また移住促進にも寄与する事業となるよう、引き続き見守っていきます。

子育てし大県“さが” 『すまいる』支援事業



問2 市町の無電柱化の推進について

平成28年11月議会一般質問において、無電柱化の推進について質問に取上げました。

この度、市町の取組みを支援する無電柱化支援事業が新規に創設されたことで、今後とも様々な観点から無電柱化の推進が必要であり、県に提案しました。

道路の無電柱化には、良好な景観・住環境の形成・安全で快適な通行空間の確保・大規模災害時の電柱倒壊による二次災害防止など、様々なメリットがあると考えております。

佐賀県内では、平成30年3月から肥前さが幕末維新博覧会の開催が予定されています。また平成31年には、全国高等学校総合文化祭、平成34年度には九州新幹線西九州ルートの開業、その翌年の平成35年度には、国民体育大会・全国障害者スポーツ大会と今後多くのイベントが予定されています。

佐賀県には伝統的建造物群保存地区など、美しい歴史的街並みの残る地域も多く存在し、そういった地域における無電柱化への取組みが魅力ある街づくりのひとつの手段ではないかと思います。

しかし歴史的街並みの残る地域など、良好な景観形成を図るべき地域では、建物への取組みは進みつつあるも

の、無電柱化については進んでいません。国においては、無電柱化の推進に関する法律に基づく無電柱化推進計画をはじめ、防災、安全・快適、景観の観点から無電柱化の推進への動きは発現しており、先月8月には第7回「無電柱化推進のあり方検討委員会」も開催されました。県においては、特に歴史情緒溢れるエリアやベビーカー等の歩行環境に影響してしまう狭い道路に関してなど、現場の意見や要望を汲み取りながら無電柱化を推し進めていく必要があります。

今年度、県において「市町美しい景観づくり支援事業の制度」を拡充し、無電柱化に取り組む市町への支援メニューが追加されました。我が国の電力供給の歴史は、高度経済成長期に見られたように景観よりもスピードとコストを優先させ道路上にいち早く電柱を設置し、配電設備環境を整えてきました。反してヨーロッパ圏では、馬車が通る道が存在し歩道も広く、下水を設置する際に合わせて地下空間が設けられていたために、配電設備を地中に埋設することも容易であり、加えて景観への意識も高いことから現在では、無電柱化が100%整備されている都市も存在しています。

まず、無電柱化を進める上での問題点として最初に挙げられるのがコスト面です。電柱を地中に埋設する場合、埋設する深さが深くなることで、コストが掛かってしまいます。現在国内では、管路に浅く埋設する手法が多く採用されています。電線共同溝方式や単独方式などが代表的な手法として挙げられますが、それぞれ地域に合った手法を採用し進めていく必要があります。

肥前さが幕末維新博覧会開催においては、佐賀市の城内エリアを歩いて散策するというイメージで計画をされています。

イベントに合わせて訪問者が増加することを考えると、今後改めて佐賀県を訪ねてみたいと思う方々が増えると考えた時に将来、改めて佐賀県にお越しいただいた際に電柱の無い良好な景観が広がる歴史情緒溢れる美しい街並みとなっていたらどうでしょうか。佐賀県の印象がよりよいものとなるのではないかと思います。歴史的街並みの保全という観点からも、無電柱化の推進は歴史情緒溢れるエリアにおいては大変効果的であると言えます。

道路幅も狭く、歴史情緒溢れる地域、また建物自体を保全しなければいけないエリアにおいては、軒下配線の手法を採用することも有効だと思います。また、木造建築物が多い我が国においては建て替え間隔も短く、低コスト手法である軒下配線が大変効果があるのではないかと考えます。そして、通学路や住宅地など特に道路が狭く通行に支障があるエリアにおいては、裏道路への移設なども検討すべきです。

私は、無電柱化は何より防災のためにも推進していかなばならないと強く感じています。電柱は電線で繋がっているため、倒壊する時は連続的に倒壊してしまいます。また台風や突風などの災害にも弱いのが電柱です。平成27年5月～9月において台風や突風等による被害は、電柱倒壊が約500本で、電柱倒壊により1日以上通行止めが発生した箇所もありました。九州北部豪雨における電柱の被害状況については、電柱の流出、折損、傾斜などが約600本、電線の断線及び混線などが約800箇所でした。また土砂や倒木等が原因で電柱倒壊等の被害現場への到着が遅れ、復旧に時間を要したという報告もありました。今後、佐賀県において防災対策を講じていく上で電柱倒壊における二次災害の防止等、防災の観点からも無電柱化を進める中で重要事項として認識しなければなりません。

国土交通省道路局の平成29年度道路関係予算概要では、地方への重点的支援として、防災・安全交付金による支援も始まり、緊急輸送道路における無電柱化について支援するとされています。ただ人々の暮らしにおいては、市町が管理する生活道路になります。万が一、地震等で倒壊した場合など必ずしも道路側ではなく、住宅側に倒れる危険性もあるので様々な可能性を想定して防災の観点から無電柱化を考えていく必要があります。

国内には約3,500万本の電柱が存在し、年間7万本のペースで増加しています。海外における無電柱化の現状は、ヨーロッパのロンドンやパリで100%、台北やシンガポールで約95%となっています。日本では東京23区で7%、大阪市で5%となっています。

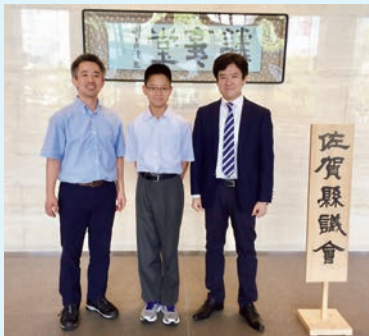
そして佐賀県においては、歴史情緒溢れる地域を抱える美しい県であることを誇りに、今後の魅力的なイベントをチャンスと捉え、無電柱化推進の取組みを通じて県民への周知に努め、防災の観点からの無電柱化の必要性も伝えていかなばなりません。日常に存在している高さ平均約14m、重さ平均約2,500kgのコンクリートが至る所に存在しています。それらの電柱が地中に埋設されることで、より安全な環境を整備し、佐賀の空がより広く明るくなることを期待しています。



職業インタビュー

20年来お世話になっている方と息子さんが埼玉県から来佐、県議会内を案内し様々な質問に答えました。中学1年生の息子さんの夏休みの宿題で「様々な職業の人へのインタビュー」として議員の仕事内容や仕事をしていてよかったこと、大変だったことなど、多岐に渡る質問を頂戴しました。夏休み後の成果発表で、どの職業に興味関心を持ったかのクラス投票で県議会議員が1位になったとのことでした。

将来を担う子供たちの学習の一端となれたことが何より嬉しいです。



青木かずのり活動報告

- 7月 いのちの講演会出席
6月定例議会閉会
唐人神社例大祭参列
医療センター好生館との意見交換会出席
異業種交流会出席
常任委員会隣県視察（鹿児島市）
- 8月 県立盲学校体験学習参加
佐賀城下栄の国まつり
佐賀キワニスクラブ例会参加
佐賀県護国神社みたままつり
佐賀県首都圏事務所訪問（東京都）
・中学生職場体験学習対応
日台交流サミット参加（熊本市）
異業種交流会設立記念出席
- 9月 議員インターン活動
・三重津海軍所跡訪問調査
・中学校授業見学
・目達原駐屯地及び佐賀国道事務所意見交換
・北山東部小学校運動会参加
・肥前名尾和紙訪問
佐賀県視覚障害者福祉大会出席
山口よしのり知事を励ます会参列
9月定例議会開会
県土整備警察常任委員会理事会出席
佐賀市総合防災訓練参加
国土交通省佐賀国道事務所と意見交換
常任委員会現地視察（佐賀市）
県土整備警察常任委員会質問
佐賀県警柔道剣道大会開会式参列
九州未来創造会議出席

1868-2018
肥前さが幕末維新博覧会
2018.3.17 - 2019.1.14

その時、佐賀は世界を見ていた。そして今、佐賀は未来を見ている。
150年前の佐賀に、未来のヒントがある。

肥前さが
幕末維新
博覧会

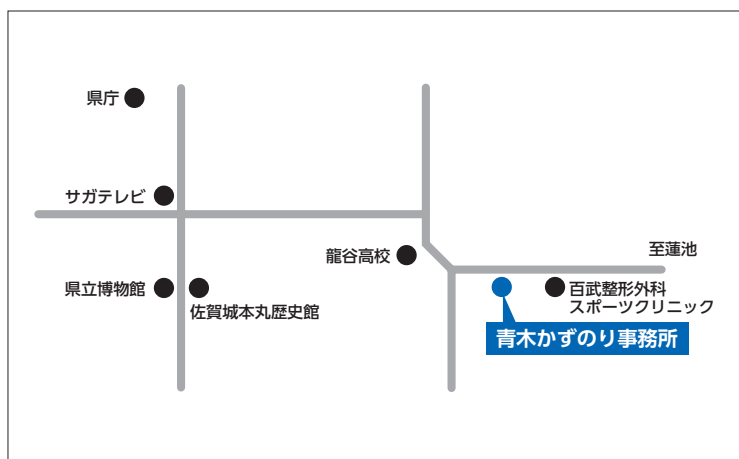
2018 2019
3.17 - 1.14

1868 SAGA

佐賀市内エリアを中心に県内全域で開催

エリアマップ

肥前さが幕末維新博覧会推進協議会（佐賀県肥前さが幕末維新博覧会事務局内）
〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号
TEL.0952(25)7504 Fax.0952(25)7392



青木かずのり事務所

〒840-0054 佐賀市水ヶ江4丁目1-43
TEL 0952-97-9323 FAX 0952-97-9324
公式HP <http://aokikazunori.com>
E-mail aoki.saga@gmail.com



facebookとtwitter随時更新中